

本社屋を建てる

昭和十五年（一九四〇）三月、現在本社（東京都港区虎ノ門二―五―五）のある（当時の港区芝西久保明舟町一番地）の土地を購入、ここに木造三階建ての本社屋を建築した。外観前面がレンガ張りで、当時この辺りでは人目をひく立派なもので延べ百六十五坪（五四四、五平方）であった。

内部は一階が事務所、社長室、応接室、一部が倉庫になっていた。なお、奥の半分が地下室になっていた、ここにはゴム類を置いた。二階は石川社長一家の住まい、三階の三分の二が従業員宿舎、三分の一が倉庫でコルク、紙類が置かれていた。

この建物は昭和十九年三月九日夜の大空襲で焼けるまで、当社の要（かなめ）的、象徴としての役割を果たした。その後、本社焼跡に二坪（六・六平方メートル）ほどの連絡用小屋を建て、二、三年はここで営業を続けた。

